

はるか 悠

多気町郷土資料館だより

2024. 1 . 1

108

たき



月光仮面や巨人の星 長嶋茂雄に裕次郎

新春にあたり、当時の子どもたちの賑やかな遊び声が伝わってきそうなメンコのご紹介です。

掲載したメンコは、当館所蔵60点の中から選んで約80%に縮小印刷したものです。

絵柄から昭和30年代・40年代のものと推測される。ちょうど高度経済成長を背景にテレビが急速に各家庭に普及した時代である。人気の時代劇やアニメ、映画スター、野球選手が描かれている。人物は写真ではなく似顔絵、茶色いボール紙に色数少ない粗雑な印刷、印刷のズレもある。まだまだ豊かさには程遠い時代であった。

このメンコは大切に蒐集、保管されていたコレクションと思われる。高度経済成長の波はフランケン管を通して田舎にも運ばれた。当時の子どもたちにとって、メンコは遊び道具というだけでなく、新しい文化や人物に触れる窓口となり、明日の経済的豊かさを予感させる物であったのかもしれない。

多気郷土資料館 開館30周年記念企画

特別企画展

ふるさとの宝物がたり
―多気町の歴史と文化財―

令和6年

1月24日(水)～3月17日(日)

9時～16時 月曜・祝日休館

入館無料



神事頭番帳(県指定文化財)
津田神社所蔵 当館寄託

開館30年記念のリニューアル後、初となる今回の企画展では、多気町の文化財をテーマに取り上げます。

縄文時代の坂倉遺跡から昭和の産業遺産である日ノ谷の丹生水銀鉱採掘跡まで、写真と館蔵資料で多気町内にある指定文化財71件をご紹介します。



丹生磨の版木(町指定文化財)
勢和郷土資料館所蔵



銀象眼大刀(町指定文化財) 当館所蔵

ます。豊かな自然、歴史的遺産を有する多気町の「宝物」の紹介を通して、それぞれの背景にある歴史の「物語」を伝えようという展示です。

あわせて、昨年、一般の方から募集した「わが町の宝」の応募写真の応募写真、未指定、未登録の文化財にも見どころが多くあります。

この展示が多気町にまだまだ眠る「お宝」を多くの方に見つけていただく好機になることを願っています。

記念講演会

人が歩き旅する街道

多気町内の熊野参詣道

伊勢路を中心に

講師 伊藤 文彦氏

(三重県環境生活部

文化振興課職員・

世界遺産学博士)

日時 令和6年2月3日(土)

13時30分～15時

中学生の職業体験

多気中学校の生徒四名が、職業体験で多気郷土資料館に来てくれた。

まずは収蔵庫を案内する。ここには古文書や過去の生活道具が大切に保管されている。郷土資料館は、地元の資料を収集、保存、調査、研究し、展示公開している。

貴重な資料を後世に引き継いでいく社会的役割を担っていることを伝える。資料



会場 多気郡教育会館2階

第1研修室

(多気郷土資料館の上)

熊野参詣道伊勢路をはじめ、伊勢本街道、和歌山別街道が通る交通の要衝であった多気町の歴史・文化について、街道という視点からお話しいただきます。

※ 参加申込が必要です。詳しくは広報一月号折り込みチラシをご覧ください。

の中から津田地区佐伯中の実物の検地帳を見ている。それを見ながら、太閤検地がこの地域で実際に行われたことを話す。続いて資料整理作業と一切支丹御改の古文書解読を試みる。が、崩し字の古文書解読は専門性が必要で、手強い。「多気町は歴史がすごいと思う」「今まで知らなかったことをたくさん知った」「古文書解読は面倒くさい」「資料館の仕事は地味な仕事だけどやりがいがあるぞう」。

資料館の社会的役割、責任、それを果たすためには技術・知識・専門性が必要なこと。この仕事の喜びや苦勞・誇り。多気町の歴史と文化を伝えることができた一日であった。

「ちょっとひとこと」欄へのご投稿をお待ちしています。郷土資料館についてのご意見、郷土の歴史に関すること、昔の暮らしの思い出などなんでも結構です。400字詰め原稿用紙1枚程度でお願いします。